

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年10月14日

BMJ : パンデミック前よりも高くなったイギリスの全死亡率は低下傾向

【松崎雑感】

新型コロナ感染による直接死亡以外に、医療システムの窮迫および基礎疾患のある人々が医療ケアを受けられなくなって死亡に至るという「コロナの間接的影響」による死亡もあると思います。

コロナパンデミックと言う史上まれにみる感染症の影響は直接間接に大きなものがあります。BMJはイギリスデータを適切に発信していますが、日本の現状をリアルタイムで発信する信頼できるメディアがないのは、感染対策上の致命的欠陥だと思います。

パンデミック前よりも高くなったイギリスの全死亡率は低下傾向

O'Dowd A. Covid-19: UK death rate is still higher than before pandemic. *BMJ*. 2023;383:p2371. Published 2023 Oct 12.
doi:10.1136/bmj.p2371

最近の調査によれば、パンデミック前に比べて、超過死亡増加が続いている。パンデミック後の3年半でもたらされた超過死亡数が20万4700人になるだろうと推定されている

(内訳：2020年7万5600人、21年5万6500人、22年3万9400人、23年9月までに3万3200人：アクチュアリー研究所およびアクチュアリー学部の継続的死亡率調査(CMI))

ただし4半期ごとの集計では、最近の4半期の超過死亡数は若干低下している。

CMIは2019年の同期の総死亡数と比較して超過死亡数を算出している。これらの死亡統計はイングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドの統計を基に英国統計局が発表している。

イングランドとウェールズにおける9月29日の属する週の死亡者数は9935名で、超過死亡数は44名と算定された。

これは、2019年と比較して超過死亡が0.4%増となる（年齢分布が同じという前提で）。ちなみにその前の週の超過死亡増は5%だった（超過死亡数が減少に転じている：松崎）。

2023年の第三四半期にイギリスでは、新型コロナ死亡と言う診断書が出された死亡者は2165名であり、これは同期間の超過死亡の50%を占めていた。

ただし、コロナパンデミックが残りの超過死亡に全く関与していないということとはできない。コロナが間接的に様々な形で超過死亡に関与していた可能性があることは否定できない。

CMIの超過死亡検討委員会座長コブス・ダニエル氏は「最近3か月の超過死亡数は、その前15か月の超過死亡と同じレベルが続いている」と述べた。

医療問題のシンクタンク、キングファンドの上級フェロー、ヴィーナ・ローリー氏は本誌に次のように語った。。

「昨年末からコロナとインフルエンザによる死亡が多く発生した。今回の超過死亡統計はそれらを反映しているのだろう。したがって、超過死亡が19年よりも5.5%増えているとはいっても、2019年と比較することは適切ではないかもしれない。今年は今のところ、最悪のパンデミックがやっと終わったと思った後に懸念された揺り返しは、起きていないようだ。今年の9月まではパンデミック前よりも死亡数の多い状態が続いているが、この冬によほどのことがないかぎり、死亡数のレベルはパンデミック前に戻るだろう。知らんけど（but it's unpredictable）」

彼女は「コロナは終わっていない。感染は続いている。パンデミック初期のような死亡者の激増は起きないと思うが、ワクチン接種率が減っていることは心配だ」と結んだ。